

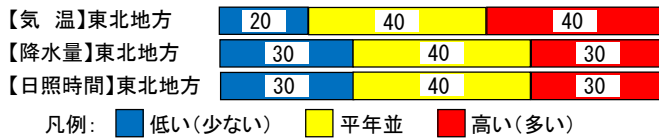
銘柄米生産情報

会津若松市・磐梯町・猪苗代町・
JA会津よつば（あいづ地区）・福島県会津農林事務所農業振興普及部
福島県農業共済組合会津支所・全農福島県本部

多様で競争力のある水田農業を構築しましょう！
主食用米から飼料用米や加工米、大豆・麦等高収益作物への転換を！

- 田植作業は、ほぼ平年並みに行われました。
- 田植後の活着はおおむね良好で、その後の生育は平年並みに推移しています。
- 病害虫は現時点で目立った発生はみられていません。引き続き適期防除に努めましょう。

東北地方1か月予報 <仙台管区气象台 R4.6.9 発表> 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
気温の変動が大きい見込みです。

生育や土壌条件に応じた水管理

【分けつ確保までの水管理】

- ・分けつを早期に確保するため、水深3cm程度の浅水管理をしましょう。
- ・分けつ促進
昼間止水、夜間かん水や浅水管理を行い、水温の日較差を大きくし分けつを促しましょう。
- ・ガスわき（還元障害）の対策
温暖な日を選んで、間断かんがいを行いましょう。

【適正な中干しの実施】

- ・表1を目安に、1株当たりの目標茎数の8割程度を確保したら速やかに中干しを行いましょう。
- ・中干しは田面に1cmほどの亀裂が入る程度まで行い、出穂30日前までに終わらせましょう。
- ・中干しが終わったら、間断かんがいを行いましょう。（低温が予想される場合は深水管理を！）

【溝切り】

中干し時に溝切りをすれば、その後の間断かんがいもスムーズになります。
～溝切りのメリット～

- ・水の掛け引きが容易になります。
- ・ほ場表面を硬くするため、大型機械で作業しやすくなります。
- ・酸素が土中に入りやすくなり、根が健全化され根張りがよくなります。

【溝切りの方法】

- ① 溝切りする1～2日前に落水し、表土を少し固めましょう。
- ② 約5m間隔で溝をつけ、枕ぎわ・枕地の溝と連結し、排水口に導きましょう。

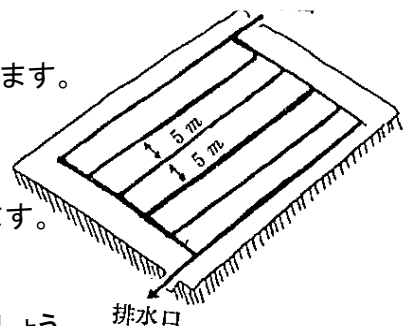


図1 溝切りの例


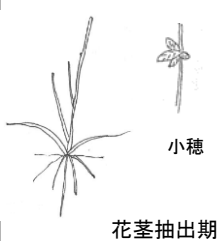

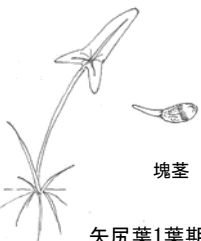

表1 品種・地帯別の1株あたりの目標茎数の目安

品種名	平坦地 (本/株)	山間高冷地 (本/株)
天のつぶ	23～25本	21～23本
ひとめぼれ	23～25本	23～25本
コシヒカリ	22本	
里山のつぶ		22～26本
チヨニシキ	23～25本	23～25本

中・後期剤を活用した雑草対策

- 残った雑草の種類や量に応じて、中・後期剤により追加防除を行きましょう。(表2参照)
- 雑草イネの発生を確認したら、抜き取り作業を行ってください。
- 風が強い時は、薬剤が均一に広がりにくく、ドリフトや薬害の発生も懸念されるため、散布しないようにしましょう。
- 農薬を使用する際は、最新の農薬登録情報を必ず確認し、使用基準を守ってください。
- また、農薬を使用したら、必ず記帳しましょう。

表2 中期除草剤等の例

	ノビエ	ホタルイ	クログワイ	オモダカ	クサネム
雑草の種類と特徴	 3葉期	 小穂 花茎抽出期	 夏～秋に塊茎をつくる	 塊茎 矢尻葉1葉期	 3葉期
薬剤名・使用時期	クリンチャーEW 移植後20日～ノビエ6葉期 (但し、収穫30日前まで)	バサグラン粒剤(ナトリウム塩) 移植後15～55日(但し、収穫60日前まで) クリンチャーバスME液剤 移植後15日～ノビエ5葉期 (但し、収穫50日前まで)			ノミニー液剤 移植後30日～クサネムの草丈40cmまで(但し、収穫60日前まで)

斑点米カメムシ類防除対策

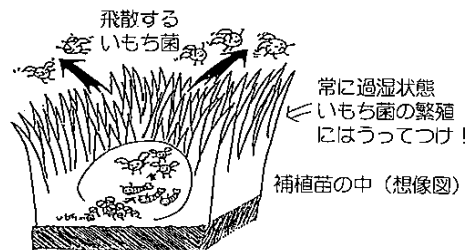
畦畔等の草刈りを計画的に行いましょう。

6月は、玄米を食害するカメムシの親となる世代が成長し、繁殖する時期です。

畦畔やほ場周辺の草刈りを徹底し、玄米を食害するカメムシの個体数低減をめざしましょう。

いもち病対策 (薬剤の散布遅れに注意！)

- 移植後に置き苗を放置している水田が多く見られます。置き苗は葉いもちの発生源となるため、補植作業が終了したら速やかに撤去しましょう。
- いもち病に登録のある箱施用剤を使用しなかった水田では、必ず薬剤による防除を行いましょう。



オリゼメート粒剤	葉いもちには初発の10日前から初発時、穂いもちには出穂3～4週間前(但し、収穫14日前まで)
コラトップ粒剤5	葉いもちに対しては初発10日前～初発時、穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで
フジワン1キロ粒剤	葉いもちに対しては初発7～10日前、穂いもちに対しては出穂10～30日前(但し、収穫30日前まで)

- 目標とする茎数の確保、適切な中干しなどの基本技術を励行しましょう。
- いもち病は、発生予察情報を参考に予防に努めるとともに、早期発見即対応(防除)を心がけましょう。
- 斑点米カメムシ類防除対策として、計画的に草刈りを行いましょう。

さまざまなリスクに備え、収入保険に加入しましょう！青色申告を行っている農業経営者が対象です。